

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0871800199 | | |
| 法人名 | 有限会社 サンミルクサービス | | |
| 事業所名 | グループホーム バンヤンツリー岩井 | | |
| 所在地 | 茨城県坂東市岩井5200-29 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年8月27日 | 評価結果市町村受理日 | 平成24年12月7日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail.2011.022_kani=true&JigyosyoCd=0871800199-00&PrefCd=08&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人認知症ケア研究所 |
| 所在地 | 茨城県水戸市酒門町字千束4637-2 |
| 訪問調査日 | 平成24年10月23日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <p>地域の一員として入居後も友達との外出交流。行きつけの理髪店へ通ったり、毎月の外食では各個人からなじみの食堂や希望する食事を伺い、それに合わせた外食で地域社会との交流、気分転換を図っている。好評が多いイチゴ狩りも守谷市まで行っています。季節に合わせた四季折々の梅、桜、あやめ、あじさい、蓮、菊等の観賞や初詣、地域の夏祭り、運動会の見学等、積極的に外出を支援し職員も一緒に楽しみを共有している。</p> <p>毎月担当職員が広報誌を作成し、個別に近況報告を行い家族にとっても好評を得ている。</p> |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>地域密着型サービスの提供を行い、利用者が今まで過ごしてきた家庭の延長の生活を職員と共に過ごしている。地域一番の外出支援を目指し、馴染みの店に出かけたり、全体行事で季節に応じた花見、夏祭り、運動会の見学等に出かけ、利用者はその時は普段以上の笑顔を見せて楽しい一時をすごしている。友人と外出しお墓参りに行く利用者がいる。日々の交流では散歩時に近隣の方々と挨拶を交わしたり、小学生・中学生が学校帰りに立ち寄りときもあるという。全職員が利用者一人一人に合った支援を常に心がけ提供している事業所であると思われる。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | これまでの理念を検討し、利用者がこれまでの生活とこれからの生活が継続されたものになるように見直した。カンファレンス等で確認しながら共有し実践につなげている。 | 利用者がこれまでの生活を過ごせるよう、再度職員で具体化した理念を作成。事務所内に掲示し、ミーティング・カンファレンス等で管理者・職員で確認を行い、共有して日々のケアの提供に努めている。職員からは日々のケアの中でその日の利用者の状態に合わせた支援に努めているという話があった。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域行事に積極的に参加し、定期的にボランティアさんの受け入れを行い交流をはかっている。 | 自治会に加入している。ボランティア(ハーモニカ・やすき節・中学校の吹奏楽部演奏)を受け入れ利用者もそれを楽しみにしている。中学校の体育祭や東京農芸大学祭に見学に出かけている。地域住民から認知症の相談をうけたり、野菜・球根・切花の提供を受けるときがある。市主催の健康祭に参加しグループホームに対する理解・周知に努めている。ボランティアとしてイベント開催時には協力を得たり、日頃から利用者の様子を尋ねてくれる地域住民がいると言う。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 実習生の受け入れや、認知症の相談を積極的に受け入れている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている | 外部評価の実施や、市や消防署等からの立ち入りや、家族からの意見・要望についても報告をしている。それらについての意見を伺いサービス向上に努めている。 | 2ヶ月ごとに利用者家族代表・利用者・薬剤師・地域住民・民生委員・事業所関係者・行政の構成メンバーで開催。行事報告・利用者状況・外部評価・インフルエンザ・介護保険状況・ホームの運営状況等について報告を行い、参加者から出た意見をサービス向上に努めている。議事録にまとめ、職員には『ミーティング等で報告している。家族には『かわら版』と同封し郵送している。会議後の雑談の中から貴重な意見が聞けるときもある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市の担当職員と連携を取り、利用者数の報告をしている。 認定更新の機会や困難事例等の相談事項に応じ対応して頂いたり、事業所のケアサービスの取り組みを伝え連携をはかっている。 | 行政と積極的に連携をとり、利用者の報告を行ったり困難事例のアドバイスをもらっている。施設サービス事業所部会に参加し行政・各事業所と情報交換を行っている。中学生の体験学習の場として提供。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束によって利用者が受ける弊害について職員全体が理解し、転倒安全面に注意をはかっている。 自由な暮らしを支えられる様に取り組んでいる。 | 勉強会・研修等で職員は具体的拘束行為・弊害を理解し、拘束をしないで利用者の安全を配慮したケアの提供に努めている。外出傾向が出た場合は一緒にしばらく出かけている。防犯・安全上門扉にセンサーを設置しているが庭内は自由に出入りしている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 勉強会を行い、虐待防止につなげている。 虐待行為を理解し、職員全体で注意を払うよう努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 社会福祉協議会の協力を得て勉強会を行い、学ぶ機会は設けているが、全職員が学んでいないため、活用できる支援体制になっていない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 家族と十分に話し合いを取り説明を行っている。 リスクなども説明し理解していただいている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | かわらばんや面会時に積極的に声を掛け、意見・要望を聞き、気軽に意見を出してもらえようとする雰囲気作りと関係作りを努めている。 | 日頃からコミュニケーションに心がけ、面会時・行事参加時に直接意見を聞くようにしている。意見の言い出しにくい家族・利用者に対し、敬老会・クリスマス会後に家族会を開催したり、意見箱の設置・第三者を明示し意見の吸い上げに努めている。職員に名札をつけて欲しいとの要望があり即座に対応した。お餅つきに関し質問があり、医療機関の開院時間に実施等注意をしている旨を伝えた。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ミーティング、勉強会、個人面談で意見を聞く時間を設けている。 職員の声を傾聴するよう努めている。 代表者、管理者で話し合い、意見を反映させている。 | 月1回のミーティング、勉強会等で業務に関する意見等を聞いている。個人面談以外に現場職員の意見は貴重であり、意見の言い合える職場の雰囲気作りにも努めているという管理者の話に対し、職員からの聞きとり時に、上層部に何でも話し合えるという話であった。参加希望する外部研修の受講は可能である。受講後は報告書を提出し、職員は共有している。職員の意見からケース記録の記入時間帯やテーブルの増設要望に対処した。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | キャリアパスを導入し、今後の課題を明確化し、職員が向上心、目標をもって働けるよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 実務経験年数や、力量を見極めて、県の研修や、民間の研修に積極的に参加している。事業所内での定期的な研修会も実施し、職員が勉強する機会を設けている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市の介護事業者連絡協議会や、地域密着連絡協議会等に加入している。お互いの施設を行き来したりしている。 | | |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前に事前面接を行い、現状の把握と不安、要望、大切なものは何かをじっくり話し、耳を傾け理解に努めている。 体験入所、見学を通して希望に応じている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の立場に立って、これまでの状況把握、心配事について話を聞き、要望を理解しどのような生活を望んでいるか心がけている。 信頼関係を築けるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人と家族にとって何が必要かを確認し、事業所、他事業所とも連携をとりながら、柔軟な対応に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者と喜怒哀楽を共にし、寄り添って生活を支援し、持っている能力を生かし協働しながら生活支援に心掛けて、楽しく生活できる場面作りをしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族からこれまでの情報を聞き、職員からは今の情報を伝え、それを共有し家族の思いの力を頂き、共に利用者支援、関係作りをしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族より生活習慣や行きつけの場所等、その人の馴染みの情報を頂き、継続支援できるよう場面作りをしている。 | 遠方への支援は家族の協力を得ているが、理・美容院・お店・スーパー・小料理店等に出かけたり、面会に来た友人と外出する等馴染みの人や場所との継続維持に努めている。希望により電話で家族・友人と連絡を取り合う利用者がいる。イベント開催時には馴染みの方々の参加を呼びかけ、多数の参加があるという。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | お茶、食事時間は職員も共にし、利用者同士がうまくいくように調整役になり、共同生活が円滑に関係作りが出来るよう努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他事業者に移られた方に、職員と利用者で面会に行ったり、行事参加を呼び掛けている。必要に応じて、相談、電話連絡も行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の中で声を掛け、言動や表情などから真意を推察したり、意思疎通が困難な方には、家族や関係者から情報を得るようにしている。 | アセスメント・日頃の会話から利用者の思いや希望を把握に努め、支援につなげている。10時と3時のおやつタイムは30分間職員の移動を禁じ利用者との対話に努めている。入浴時には本音が聞けるときがあり記録に残して職員で話し合いをしている。困難な利用者には家族に聞いたり、表情から察し、利用者本位に検討している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|--------------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居の事前面接で、本人、家族の内面から生活状態を把握するように努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一日の生活リズムを把握し、言動や行動に注目し、心身の状態把握に努めている。 出時する事に目を向け、その力を発見していくように勉めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人やご家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き反映させるようにしている。 アセスメントを含め、職員全体で意見交換やカンファレンスを行っている。 | 利用者・家族の思いを日々のケアの中から情報を得、連絡帳・ケース記録から吸い上げ、職員全体でカンファレンスを行い現況に即したケアプランを作成している。作成後は利用者・家族に説明し承諾を得ている。毎月モニタリングを行い評価につなげている。 | 目標達成の方法としては、ケアプランに沿ったとケース記録の記入が望ましい。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別に食事、水分、排泄の記録や会話や特記事項についての記録を行い、職員間で気づきを共有し、介護計画の見直しに役立てている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人、家族の状況に応じて、通院、面会、送迎等必要な支援は出来るだけ柔軟に対応し、要求に応じた生活を送って頂く様努めている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の施設、近隣の方への働きかけを行い、祭りやイベントに積極的に参加している。 運営推進会議や社協を通じ、ボランティアの交流が増している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者の受診状況や今後の受診希望を聞き、希望に沿った受診の支援をしている。 受診状況、結果はその都度報告し、情報のやり取りを共有している。 | 協力医院から月2回の往診がある。かかりつけには基本的には家族付き添いであるが、場合により職員が付き添うときもある。いづれも報告を行い記録に残していることが確認された(家族とホームとのやりとり表を作り、具体的に記入されていた)。専門医の受診も可能である。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 協力医の看護師に状況を提供、把握して頂いている。 助言、相談も受けられる体制が出来ている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 職員は出来るだけ面会に行き、病院担当者との話を聞き、情報交換を行い、早期退院できるよう努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 事業所の支援を入所時に説明している。 重度化や終末期についての説明を行い、状況変化があれば医療機関も交えて話し合いを行い、経過、結果は連絡記録に記載し、全職員が周知している。 | 契約時に重度化・終末期に向けた事業所の支援内容を話している。状況変化時には医療機関から家族に対し説明を行い、結果を記録に残している。今まで看取りの経験は無いが、利用者に悔いの無い最後を送って欲しいので、職員からはそれに応えるための話し合い・勉強会を開催したいと言う心強い意見に対し、ホームとして全体で話し合っていきたいとのこと。ターミナル全般の同意書を作成することのこと。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 勉強会、ミーティングなどで周知を図るとともに、マニュアルを整備している。 事例検討を行い、実践に備えている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 夜間を想定した避難訓練を行い、昼夜問わず職員が対応できる体制を整えている、 | 年2回消防署指導のもと、避難訓練を実施（消火器使用方法・夜間想定・AED使用方法・避難経路確認・利用書の行動把握・通報システム等）。3・11地震後、職員で備蓄等の再確認を行った。緊急時にはスプリンクラーの水を利用できるようにバルブをつけた。民生委員の協力を得てホーム周辺の交通整理を行った。運営推進会議にあわせ防災訓練の実施を考慮中とのこと。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 勉強会などで職員の意識を統一し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。 個別記録の記入は利用者の目が触れないように記入している。 | 利用者個々の人格を尊重し、支援方法・声掛けについて職員意識を統一した対応を心がけている。調査時は職員が穏やかな表情で声掛けをしていた。書類関係は事務所に保管し個人情報保護に努めている。写真掲載は家族の同意を得ている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 一方的に押し付ける事がない様、利用者が決定できるよう会話、場面作りをしている。思いの表出が困難な利用者は表情を読み取り、希望に沿えるようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1日の流れのスケジュールは決まっているが、その日の気分、体調に配慮した過ごし方を支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 身だしなみを整えられる様、朝の整容の見守りを支援している。散髪の支援や染髪、化粧品も利用者の好みや意向を取り入れている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者と職員と一緒に同じ物を取り、楽しく食事が出来る様な雰囲気作りをしている。片付けも一緒に行い、嫌いな食べ物には代替を用いたりしている。 | 委託業者の食事が提供されているが月曜日の朝・昼食は利用者と買出しにいき、下準備をしている。おやつ作りには利用者の希望を取り入れ、一緒に作るようにしている。配・下膳は利用者の出来る範囲で行っている。職員も同じテーブルを囲み、和気藹々の食事風景であった。食器類・箸は利用者個人のものを使用している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や水分量は毎日記録し、職員間で共有している。体調に合わせた食事の形態や食事時間も柔軟に対応している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、居室にて見守りしながら利用者に応じて働きかけている。 定期的に義歯洗浄も行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。オムツ、リハビリパンツに頼らず失敗してもすばやく対応しトイレ排泄を促している。 | 排泄チェック・排泄パターン・習慣・表情から把握して前誘導しトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に努めている。失禁時は他の利用者に分からないように対処している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎朝、牛乳を提供したり排便状況を把握し、体操等を促し自然排便できる様にしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 希望や生活習慣に合わせた入浴時間を支援している。できるだけ同性による支援を行い羞恥心への配慮もしている。 | 基本的には週三回の入浴になっているが、希望に応じた支援を行っている。拒否者には時間をかけて声掛けをしたり、足浴、清拭で対応。同性職員の支援を心がけ、ゆっくり入浴出来るようにしている。皮膚病防止のため、足拭きマットの上に個人用タオルを敷き対応。季節に応じたゆず・菖蒲湯を提供した時は一層会話が弾むとの事。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個人に合った休息で生活のリズムを整えてもらえるようにしている。室温や明るさにも気配りをして好みに応じている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬ファイルを作成し、服薬内容を把握できる様にしている。薬剤師の指導を受けて服薬内容の変化を記録し職員間で情報を共有している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活歴や好みを重視し喜びの日々を過ごせる様にできそうな事、得意な事をお願いして喜びとなる様な言葉かけをしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 希望に沿って柔軟に対応している。散歩、買い物以外でも数人で季節感を味わったり、なじみの場所にも出掛けたりしている。 | お天気のよい日は散歩に出かけて外気を浴び、五感の刺激に努めている。希望に応じ買物・外食・ドライブに出かけることを楽しみにしている。初詣・お花見・イチゴ狩り・ぶどう狩り・菊祭り等、イベントも多く、家族の参加もあり、利用者は楽しんでいる。今年のぶどう狩りは全利用者が参加でき、職員も楽しく過ごしたそうです。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 事業所で管理はしているが、希望に応じ本人が所持できる様にしている。支払いの際は行うことを支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族の理解を働きかけ、携帯電話や公衆電話の希望や状況に応じて使用できるようにしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関やホールに季節感のある花を飾って、ゆったりとした生活ができるようにしている。 | 利用者・訪問者が落ち着けるようにさりげなく季節の花・絵手紙・写真を飾りゆったり過ごせる雰囲気であった。リビング・ダイニングが別で、利用者がのんびりくつろいでいる姿がある。職員の趣味の盆栽で会話が広がっていた。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 玄関、テラス、庭に椅子やテーブルを置き一人又は数人で過ごせる空間を作っている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れたものを使用してもらえる様、家族に働きかけている。家族の写真や作品を飾り居心地のよい居室で暮らせるように工夫している。 | 利用者の安全を考え、大きな家具の設置は控えているが、それぞれが使い慣れた(筆筒・テレビ・仏壇等)家具を設置している。趣味の草花・生け花・塗り絵・習字・孫の成人式の晴れ着姿の写真・家族の写真は利用者の心休める手段となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者が混乱する環境があれば状況を見極め個々に合わせた整備や工夫をしている。利用者の使いやすさに視点を置き改善に努めている。 | | |

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|---|---|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 49 | 歩行が出来る利用者様に対しては、主に外出する機会が多く、車椅子を使用している利用者様や歩行が不安定な利用者様に対しては後回しになってしまっている。 | ・利用者様全員が平等に外出支援を行えるようにする。 ・家族や地域の人々の協力をさせていただきながら外出できるようにしていく。 | ・買い物へ行くときには利用者様も一緒に同行する。 ・近隣への公園への外出や地域へのイベントにも積極的に参加を促すようにする。 ・利用者様が希望する買い物へ出かける。 ・外出チェック表を作成し、平等に外出支援を行えるようにする。 | 12ヶ月 |
| 2 | | | | | ヶ月 |
| 3 | | | | | ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。